

箱のコラージュでの自己表現の有効性に関する探索的研究

－画用紙コラージュの表現内容と内的体験との比較－

下 村 秋桜子

I 問題と目的

我々は、自分の心の動きや内的世界に関心を寄せている。自分を知ることは、ありのままの自分を受け入れて心の成長を促し、個人が生きやすくなることを助ける。自己理解を促進させる方法のひとつには、雑誌の写真やイラストを箱に自由に切り貼り付けて自己を表現するコラージュ技法がある。これは「マイボックス」「セルフボックス」として利用されているが、実際の有効性を示す基礎研究は見当たらない。そこで本研究では、箱のコラージュでの自己表現による有効性を、制作者の表現や内的体験から探索的に検討することを目的として研究を行った。その際、有効性を考える上で必要になる客観的な指標としてコラージュ共通素材と「自己」の共通課題を設定し、画用紙のコラージュとの表現内容や内的体験の比較を試みた。

II 方法

本調査を行う前に、箱のコラージュでの自己表現の有効性を検討していく視点を見つけるため予備調査を行った。予備調査は、大学生・大学院生の男女6名を対象に、個別で1名につき1回、箱と画用紙とでコラージュを制作し、制作後には作品内容や内的体験を知るための半構造化の振り返り面接を実施した。予備調査の結果、個人の箱へのイメージと箱のコラージュ表現に関連性があること、箱の内側と外側では自己の異なる側面が表現されていること、箱の構造が箱のコラージュに影響を与えていることが窺えた。本調査では予備調査で得られた視点を基に、箱のコラージュでの自己表現の有効性を検討した。予備調査の方法に一部修正を加え、大学生・大学院生の男女6名に同様の手続きでコラージュ制作を実施した。

III 結果と考察

本調査の結果、箱のコラージュでの自己表現の有効性を説明する仮説がいくつか見出された。このことから、箱という媒体は個人の心の内容を投影しやすく、箱の構造特性から、立体的に箱の外と内で異なる自己を表現でき、蓋が特に個人が心の内に秘めていることや表出しにくい否定的な事柄を表現しやすくすることが示唆された。箱のコラージュでの有効性を利用することで、意識・無意識的な個人の内面を表現しやすくさせると共に、表現されたものを通して内面の意識化や気づきが得られ、自己認識を深め、自己理解に繋がる手立てになり得ると考えられる。本研究は、箱のコラージュでの自己表現の有効性を探索した研究であり、理論の構築化へ向けては今後更なる基礎的研究を蓄積していく必要があると考える。